

欧米諸国の金融・資本市場における経済倫理と企業倫理

Business Ethics in Western Securities Market

プロジェクト代表者：相沢幸悦（経済学部教授）
Koetsu Aizawa(Faculty of Economics.Prof.)

1 研究成果の概要

本研究プロジェクトの成果は、2006年7月に「品位ある資本主義」平凡社新書、9月に「反市場原理主義の経済学」日本評論社、12月に「平成金融恐慌史」ミネルヴァ書房として出版した。書評や各種紹介などが出され、社会的にも一定の評価を受けていると自負している。2007年8月には、「現代経済と資本主義の精神」時潮社を出版予定である。

ここで、これらの業績の概要をみながら、本研究の概要を明らかにする。

「品位ある資本主義」は、資本主義の本質を明らかにし、競争原理一辺倒のシステムから国家の経済への介入による経済倫理・職業倫理確立の重要性を提言した。とくにドイツ型社会的市場経済原理の理論的・実証的研究による金融・資本市場のあり方を提言している。

「反市場原理主義の経済学」は、競争一辺倒で弱肉強食のアメリカ型市場原理主義を批判し、弱者に優しいドイツ型社会的市場経済原理の理論的・実証的研究書として出版した。

「平成金融恐慌史」は、1990年から始まった平成金融恐慌の顛末を明らかにし、その克服過程で導入されたアメリカ型株主資本主義を徹底的に批判した。日本におけるマネーゲームの横行を厳しく批判し、これからの金融システムのあり方を具体的に提言した。

「現代経済と資本主義の精神」は、現代経済の特徴をドイツの社会学者、マックス・ウェーバーの業績から検討したものである。

2 研究成果の発信

本研究プロジェクトの研究成果は、このように、書籍として出版するほか、次のような媒体を通じて広く社会に発信している。

「週刊ポスト」、「日刊ゲンダイ」、「SPA」、郵政関係雑誌などから日本経済・金融システムのあり方についてのコメントを求められ、掲載されている。昨今のライブドア元社長、村上ファンド元代表の実刑判決、日興グループの粉飾決算問題では、外資系通信社であるロイター通信やAP通信からコメントを求められ、私のコメントが世界に発信されている。

私は大学教員の使命は、日々研究に励み、研究成果を講義で学生に還元することと社会に発信することにあると思う。そのため、私は、海外出張による世界の経済・金融システムの調査、日本における経済研究者のほか、金融機関や企業の実務家との徹底的な討論が不可欠だと思っている。さいわい、私は、無給ではあるが日本証券経済研究所の客員研究員を兼務しているので、金融機関のエコノミストとコンタクトを密にとることで、研究の質を高めることができていると思っている。さらに研究の質を高めていく所存である。